

高知県感染症発生動向調査（週報）

2019年 第8週 （2月18日～2月24日）

★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

定点医療機関当たりの報告は第7週の10.42から第8週は7.98と減少しています。県全域から報告があり、幡多、高知市、安芸で減少していますが、須崎、幡多では注意報値を超えていますので引き続き注意してください。

学校等における集団発生の報告でも学級閉鎖の報告が続いています。

学校等における集団発生		※感染症情報収集システム						
保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計
学級閉鎖	第8週			3				3
	累計		4	44	2	1	2	53
学年閉鎖	第8週							0
	累計	2	11	7	8	7	7	42
休校	第8週							0
	累計				1			1

インフルエンザ定点医療機関における迅速診断ではインフルエンザA型が366件、インフルエンザB型が2件の報告があります。

病原体検出情報では、臨床診断名「インフルエンザ」として搬入された検体からInfluenza virus A H3 NTが4例検出されています。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の5週間（2019年第4週～第8週）では、AH3の検出割合が最も多く67.7%、次いでAH1pdm09が31.0%、B（ビクトリア系統）が0.9%、B（山形系統）が0.2%、B（系統不明）0.2%の順でした。

減少してきていますが、注意報値を超えている地域もあるため、外出後の手洗いなどの感染予防を心がけ、症状がある方は、咳エチケットに心がけ、早めに医療機関を受診しましょう。また、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人ごみを避けるなどの対策も有効です。感染力は非常に強く、いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が拡大することから、集団生活の場では特に注意が必要です。

＜予防方法＞ 手洗いと咳エチケットを心がけましょう

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染であることから、感染予防のため以下の咳エチケットに心がけてください。

- （1）普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと。
- （2）咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。
- （3）手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと。

●厚生労働省「インフルエンザ総合ページ」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou/infulenza/index.html

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第7週の4.47から第8週では4.33と横ばいです。県全域から報告があり、中央西、幡多、安芸で減少していますが、中央東、須崎で増加しています。

学校欠席者・感染症情報システム※でも23例の報告があることから注意が必要です。

定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルス8例、ロタウイルス1例、ノロウイルスとロタウイルスの同時検出1例、細菌の病原性大腸菌2例の報告があります。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、1年を通して発生していますが、特に冬季に流行します。嘔吐、下痢が主症状ですが、その他、発熱、腹痛などの症状があります。特に、乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

＜予防方法＞ 感染予防の基本は手洗いです

帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。

便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

また、細菌による感染性胃腸炎の予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（食中毒菌を①付けない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけてください。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関するQ&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告は第7週の1.20から第8週では2.67と急増しています。県全域から報告があり、須崎、安芸、中央西、幡多で急増、高知市で増加し、特に須崎では警報値を超えています。

この病気はA群レンサ球菌による上気道の感染症です。典型的な症状は、2～5日の潜伏期を経て、突然38℃以上の発熱、咽頭発赤、莓状の舌などがみられます。1週間以内に症状は改善しますが、まれに肺炎や髄膜炎、リウマチ熱や急性糸球体腎炎などを起こすこともありますので注意してください。

<予防方法> 手洗い、咳エチケットが有効です

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛沫感染」あるいは細菌が付着した手で口や鼻に触れる「接触感染」が主な感染経路になります。患者との濃厚接触を避け、手洗い、咳エチケットを心掛けましょう。

○咽頭結膜熱に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告は第7週の0.20から第8週では0.23と横ばいです。中央東で急減、幡多で減少していますが、中央西、高知市で急増、須崎で増加し、特に須崎では2週連続で注意報値を超えています。

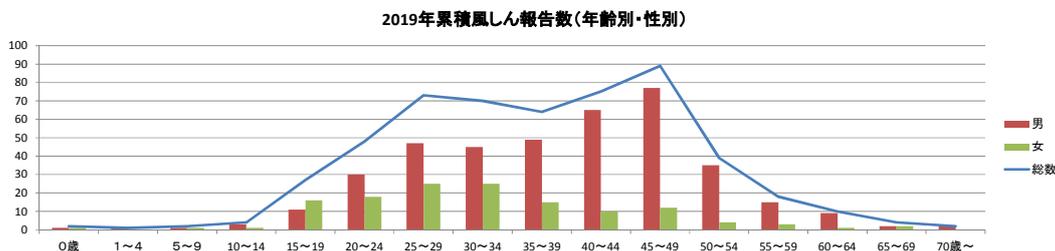
咽頭結膜熱は、アデノウイルス感染による、発熱（38～39度）、のどの痛み、結膜炎を主症状とする小児に多い疾患です。例年5月中旬から下旬頃にかけて患者数が増加し始め、7月下旬から8月上旬をピークとする流行が見られる夏期の疾患で、プールを介して流行することが多いことから、「プール熱」とも呼ばれています。

<予防方法> 手洗い励行、タオルなどの共用は避けましょう

- 1) 流行時には流水と石けんによる手洗い、うがいを励行しましょう
- 2) 感染者との密接な接触は避けましょう
- 3) タオル等は別のものを使いましょう

○風しんの届出数が多い状態が継続しています

2019年第1週～7週の報告数は528人となっており（2018年の同時期全国で3人）、93%（492人）が成人で、30歳から50歳代の男性を中心に（男性393人、女性134人、1人不明）に報告数の多い状態が継続しています。



報告数の多い都道府県は、東京都、神奈川県、千葉県、大阪府、福岡県以外に埼玉県、兵庫県、愛知県、三重県、京都府など首都圏以外の地域からも報告が認められています。

今後、感染が拡大する可能性がありますので、人混みを避けるなど今後さらなる注意・予防に務めましょ

【風しんについて】

症 状 : 発熱、発疹、リンパ節の腫れ

感 染 経 路 : 患者の咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染および接触感染でヒトからヒトへ感染

潜 伏 期 間 : 2～3週間程度

感染性のある期間: 発疹のでる7日前から発疹出現後7日くらいの間

【風しんを疑ったら】

発熱や発疹など風しんに特徴的な症状が現れた方は、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。

【予防方法】

- ・風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。
風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう（1歳児、小学校入学前1年間の幼児の方）
- ・風しんに感染した方の周りに抗体の低い妊婦がいる場合、特に妊娠20週頃まで（妊娠初期）の女性が風しんに罹ると胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患など様々な障害（先天性風しん症候群）をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊婦や赤ちゃんを守る観点から妊婦の周りの方（夫、子供及びその他の同居人）は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

【各医療機関管理者の皆様へ】

（高知県健康対策課 平成30年8月17日付け30高健対第859号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より）

- ① 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。
- ② 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生研究所で行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

●風しん Q&A 2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

●風しんについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/

●衛研ニュース第20号（高知県衛生研究所）30～50歳代の男性！風しんのことを知っていますか？

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

○麻しんに気を付けて！

麻しんは空気感染をし、強い感染力をもち、免疫が無い場合はほぼ100%感染すると言われています。

2019年第1週～7週の全国の麻しんの報告数は222人です（2018年の同時期全国で3人）。特に、報告数が多い県は大阪府77人、三重県49人です。三重県と大阪府では感染拡大防止の注意喚起がなされています。

予防にはワクチン接種が有効です。定期接種の対象年齢になったら、予防接種を受けましょう。



☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖かい春から秋にかけて盛んに活動し、この期間に多くの患者発生がみられますが、冬でも発生例が報告されています。暖かくなってきましたので、屋外で活動される場合はマダニ対策を心がけましょう（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。

マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。

地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。

活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

●重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_ga.html

●高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

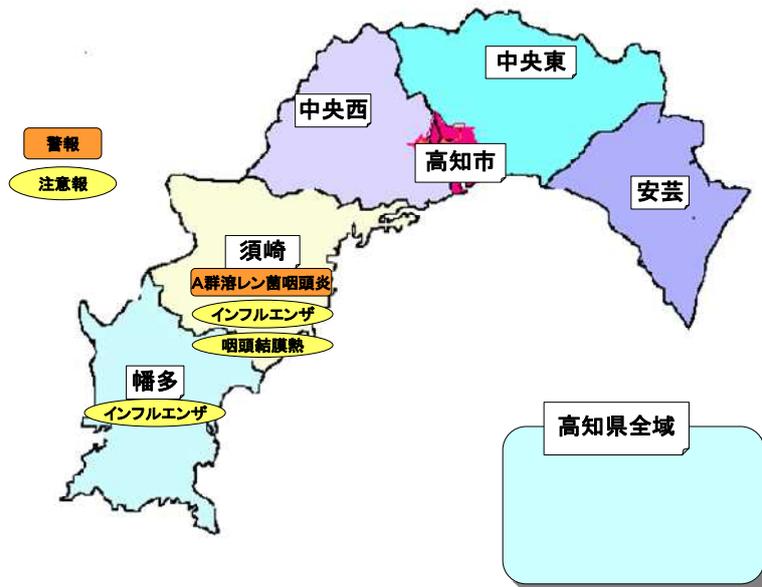
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑ : 急増 ↗ : 増加 → : 横ばい ↘ : 減少 ↓ : 急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
インフルエンザ	↘	7.98	県全域、幡多、高知市、安芸で減少していますが、須崎、幡多では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	→	4.33	中央西、幡多、安芸で減少していますが、中央東、須崎で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	2.67	県全域、須崎、安芸、中央西。幡多で急増、高知市で増加し、須崎では警報値を超えています。
RSウイルス感染症	↗	0.77	中央西で減少していますが、中央東で急増、県全域、幡多、高知市で増加しています。
水痘	↑	0.27	須崎で急減していますが、県全域、高知市、幡多で急増しています。

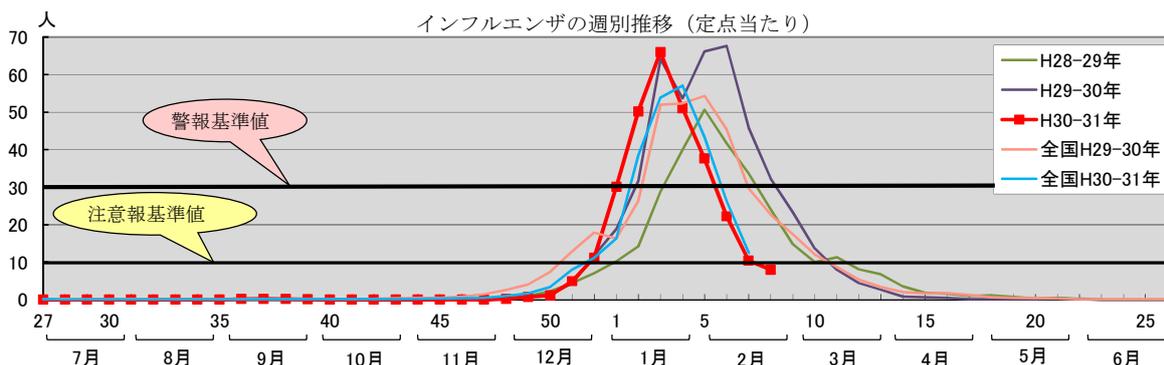
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

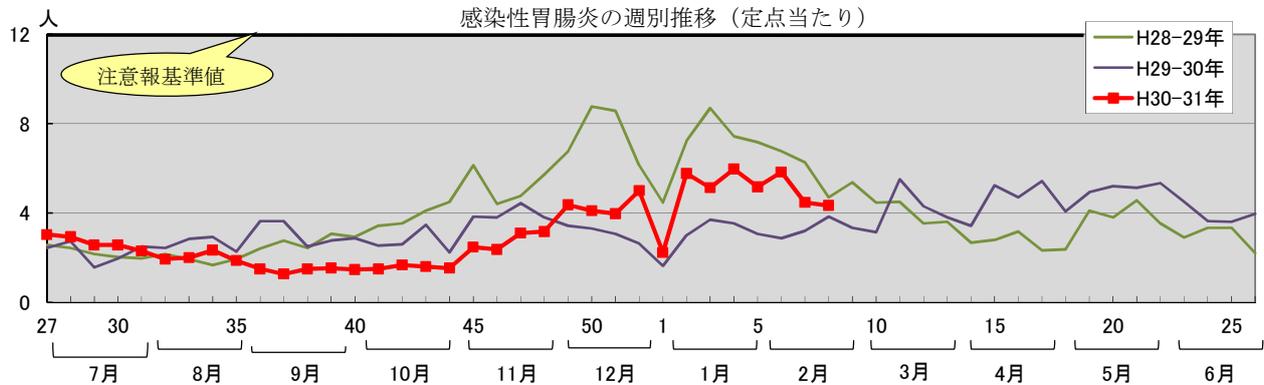
○インフルエンザ 第8週：7.98（注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 7.98（前週：10.42）と減少しています。幡多 10.75（前週：16.25）高知市 7.81（前週：11.25）安芸 2.50（前週：3.75）で減少していますが、須崎 12.75（前週：10.75）幡多で注意報値を超えています。



○**感染性胃腸炎 第8週：4.33（注意報値：12.00 警報値：20.00）**

定点医療機関からの報告数は定点当たり 4.33（前週：4.47）と横ばいです。中央西 6.00（前週：7.67）幡多 2.60（前週：3.40）安芸 2.00（前週：4.00）で減少していますが、中央東 5.14（前週：3.14）須崎 2.50（前週：1.50）で増加しています。



★**病原体検出情報**

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
8	インフルエンザ	40℃,咳嗽,上気道炎,	7	女	高知市	Influenza virus A H3 NT
8	インフルエンザ	37℃,咳嗽,	49	男	須崎	Influenza virus A H3 NT
8	インフルエンザ	39℃,咳嗽,上気道炎,	8	男	幡多	Influenza virus A H3 NT
8	インフルエンザ	40℃,咳嗽,	2	男	幡多	Influenza virus A H3 NT

★**全数把握感染症**

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結 核	1	15	80歳代 男	幡 多
4類	レジオネラ症	1	2	60歳代 男	高知市
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	8	70歳代 男	須 崎
		1		80歳代 女	高知市
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	5	70歳代 男	中央東
		1		60歳代 男	高知市
	百日咳	1	31	10～14歳 男	
		1		15～19歳 女	
1		5～9歳 男		須 崎	
1		10～14歳 女			
1	10～14歳 男				

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	早明浦病院小児科	RSウイルス感染症1例(11ヶ月女:他院に入院)
	野市中央病院小児科	インフルエンザA型2例(3歳男女:共にワクチン接種済み)
高知市	高知医療センター小児科	RSウイルス感染症3例(2ヶ月女、4ヶ月男、11ヶ月女) 病原性大腸菌1例(0ヶ月女) インフルエンザA型2例
	けら小児科・アレルギー科	ロタウイルス腸炎1例(1歳) 病原性大腸菌O-25腸炎1例(34歳)
	三愛病院小児科	A型インフルエンザ2回目1例(11歳男)
	細木病院小児科	ノロ4例(1歳女2人、2歳女、3歳男) ノロとロタ同時検出1例(6ヶ月男)
	福井小児科・内科・循環器科	インフルエンザA型5例(ワクチン接種済み0人) 溶連菌感染症3例
中央西	石黒小児科	ノロウイルス1例(6歳女) インフルエンザ7例(内3ヶ月男1名)
	くぼたこどもクリニック	インフルエンザA型1例(14歳女:須崎市)
	日高クリニック	アデノウイルス扁桃炎1例(1歳男)
須崎	もりはた小児科	感染性胃腸炎(ノロ)2例 百日咳2例(7歳、11歳) 溶連菌感染症18例と急増 インフルエンザ27例(全てA型)
幡多	さたけ小児科	水痘1例(16歳男:ワクチン1回済み) ノロウイルス1例(2歳男) インフルエンザ33例(全てA型)

★全国情報

第6号(2月4日~2月10日)

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 結核317例
- 3類感染症: 細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症27例、腸チフス1例、パラチフス1例
- 4類感染症: E型肝炎8例、A型肝炎10例、つつが虫病1例、日本紅斑熱1例、レジオネラ症25例
- 5類感染症: アメーバ赤痢10例、ウイルス性肝炎3例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症22例
急性弛緩性麻痺1例、急性脳炎16例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症11例、後天性免疫不全症候群11例
侵襲性インフルエンザ菌感染症6例、侵襲性肺炎球菌感染症59例、水痘(入院例に限る)4例
梅毒66例、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、百日咳249例、風しん71例
麻しん22例

- 報告遅れ: 腸管出血性大腸菌感染症1例、E型肝炎1例、日本紅斑熱2例、レジオネラ症10例
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症15例、急性弛緩性麻痺1例、急性脳炎23例
劇症型溶血性レンサ球菌感染症6例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、水痘(入院例に限る)5例
梅毒45例、百日咳76例、風しん10例、麻しん2例、薬剤耐性アシネトバクター感染症1例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第8週 平成31年2月18日(月)～平成31年2月24日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所						計	前週	全国(7週)	高知県(8週末累計) H30/12/31～H31/2/24	全国(7週末累計) H30/12/31～H31/2/17
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多					
ワフル ロッジ	インフルエンザ	10	78	125	33	51	86	383 (7.98)	500 (10.42)	61,992 (12.49)	13,225 (275.52)	1,229,796 (248.95)
小児科	咽頭結核熱			2	1	3	1	7 (0.23)	6 (0.20)	959 (0.30)	37 (1.23)	6,851 (2.17)
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	4	4	38	6	19	9	80 (2.67)	36 (1.20)	6,578 (2.07)	405 (13.50)	46,078 (14.61)
	感染性胃腸炎	4	36	54	18	5	13	130 (4.33)	134 (4.47)	16,171 (5.09)	1,167 (38.90)	132,116 (41.89)
	水痘			6			2	8 (0.27)	2 (0.07)	839 (0.26)	58 (1.93)	7,599 (2.41)
	手足口病							()	()	321 (0.10)	12 (0.40)	2,881 (0.91)
	伝染性紅斑		3	3	1			7 (0.23)	4 (0.13)	1,579 (0.50)	80 (2.67)	15,636 (4.96)
	突発性発疹			3	2		1	6 (0.20)	5 (0.17)	878 (0.28)	53 (1.77)	6,353 (2.01)
	ヘルパンギーナ							()	1 (0.03)	48 (0.02)	4 (0.13)	330 (0.10)
	流行性耳下腺炎							()	()	238 (0.07)	4 (0.13)	1,898 (0.60)
	RSウイルス感染症		1	5	2		15	23 (0.77)	16 (0.53)	1,289 (0.41)	75 (2.50)	8,555 (2.71)
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	6 (0.01)	()	48 (0.07)
	流行性角結膜炎			3				3 (1.00)	1 (0.33)	375 (0.54)	10 (3.33)	3,294 (4.74)
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	7 (0.01)	()	72 (0.15)
	無菌性髄膜炎							()	()	8 (0.02)	()	69 (0.14)
	マイコプラズマ肺炎			4				4 (0.50)	3 (0.38)	64 (0.13)	20 (2.50)	723 (1.51)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	()	2 ()	1 (0.13)	14 (0.03)
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)			2				2 (0.25)	()	64 (0.13)	8 (1.00)	293 (0.61)
計 (小児科定点当たり人数)	18 (6.50)	122 (13.37)	245 (17.89)	63 (16.60)	78 (26.25)	127 (18.95)	653 (16.68)			91,418	15,159 (338.68)	1,462,606
前週 (小児科定点当たり人数)	26 (9.25)	126 (13.06)	278 (19.79)	65 (16.73)	52 (15.25)	161 (22.45)		708 (17.22)				

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所						計	前週	全国(7週)	高知県(8週末累計) H30/12/31～H31/2/24	全国(7週末累計) H30/12/31～H31/2/17
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多					
ワフル ロッジ	インフルエンザ	2.50	7.09	7.81	6.60	12.75	10.75	7.98	10.42	12.49	275.52	248.95
小児科	咽頭結核熱			0.18	0.33	1.50	0.20	0.23	0.20	0.30	1.23	2.17
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	2.00	0.57	3.45	2.00	9.50	1.80	2.67	1.20	2.07	13.50	14.61
	感染性胃腸炎	2.00	5.14	4.91	6.00	2.50	2.60	4.33	4.47	5.09	38.90	41.89
	水痘			0.55			0.40	0.27	0.07	0.26	1.93	2.41
	手足口病							()	()	0.10	0.40	0.91
	伝染性紅斑		0.43	0.27	0.33			0.23	0.13	0.50	2.67	4.96
	突発性発疹			0.27	0.67		0.20	0.20	0.17	0.28	1.77	2.01
	ヘルパンギーナ							()	0.03	0.02	0.13	0.10
	流行性耳下腺炎							()	()	0.07	0.13	0.60
	RSウイルス感染症		0.14	0.45	0.67		3.00	0.77	0.53	0.41	2.50	2.71
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	0.01	()	0.07
	流行性角結膜炎			3.00				1.00	0.33	0.54	3.33	4.74
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	0.01	()	0.15
	無菌性髄膜炎							()	()	0.02	()	0.14
	マイコプラズマ肺炎			0.80				0.50	0.38	0.13	2.50	1.51
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	()	0.13	()	0.03
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)			0.40				0.25	()	0.13	1.00	0.61
計 (小児科定点当たり人数)	6.50	13.37	17.89	16.60	26.25	18.95	16.68			338.68		
前週 (小児科定点当たり人数)	9.25	13.06	19.79	16.73	15.25	22.45		17.22				

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2019年2月25日現在の情報により作成
しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあ
りますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)：平成 31 年第 8 週
 グラフダウンロード：[第 8 週](#)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2019年 第8週)

